



パプリカ実践型栽培施設

田川市は、我が国の近代化を支えた「黒いダイヤ」と言われた「石炭」、「白いダイヤ」と言われた「石灰石」の産地として発展してきました。また、全国的に知られている「炭坑節」も田川が発祥の地です。

しかし、昭和30年代のエネルギー革命により石炭産業は衰退し、石炭産業を中心として発展してきた本市に大きな打撃を与えました。炭坑閉山とともに、人口も減少の一途を辿っています。

石炭産業に代わる基幹産業の構築に向け、市を挙げて地場企業の活性化、新たな産業の創出に取り組み、その一環として平成16年から宝石のように色鮮やかな「パプリカ」の栽培に取り組んでいます。



福岡県
田川市

「ピュアパプリカ」の確立に向けて



平成30年
4月
開設

施設利用を通じて担い手を育成

パプリカの生産者は市内には現状で1戸、年間収量は18tほどにとどまり、担い手の育成、地域ブランド「ピュアパプリカ」の確立に向け、生産の拡大が喫緊の課題

施設の機能

①地域の担い手育成機能

農業経営コンサルタントや先導農家等の助言を受けつつパプリカの栽培から流通販売までの経営を担う能力を習得

②就農希望者の施設利用受入

約3年間（夏作・冬作を複数回）のパプリカ栽培の施設利用を通じて、市内で就農を目指す人材の確保（利用者は最大2組（グループ可））

③特産品の振興

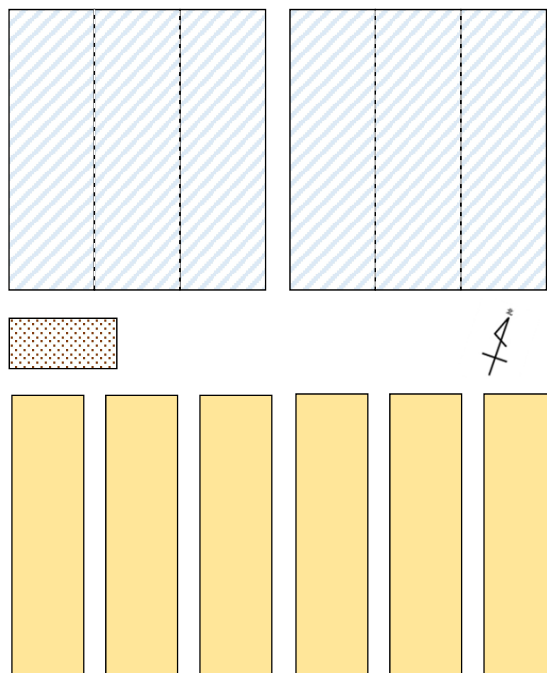


平成28年11月に、福岡県内初となる「ふるさと名物応援宣言」を行ったパプリカの生産拡大等を支援

④ICT（新技術）農業の導入

養液栽培や、各種センサーを備えた施設とすることで、ITを活用してデータを蓄積し、経験や勘に基づく従来の農業とは一線を画した未来農業を確立

施設概要



冬作用ハウス(鉄骨補強型パイプハウス)

- ・1,920㎡（間口8m×奥行40m×3連棟×2）
- ・2重カーテン、誘引ワイヤー、循環扇、暖房機
- ・養液システム（点滴ペンチューブ式）一式

夏作用ハウス(パイプハウス)

- ・1,728㎡（間口7.2m×奥行40m×単棟×6）
- ・誘引ワイヤー
- ・養液システム（点滴ペンチューブ式）一式

管理棟(鉄骨造平屋建て)

- ・160㎡（間口8m×奥行20m×単棟）
- ・事務室（トイレ）
- ・養液設備管理室、選果調整室、予冷库
- ・自動養液管理システム一式

施設利用スケジュール（予定）



- ・異なる栽培形態（夏作・冬作）を複数回経験し、栽培技術を習得
- ・併せて収穫物の販売（販路開拓含む）までを行うことで、経営能力を習得

		第1期利用者		第2期利用者					
		令和2年		令和3年		令和4年		令和5年	
月	夏作	冬作	夏作	冬作	夏作	冬作	夏作	冬作	
1			事前研修 ・資材発注管理 ・販路開拓等						
2									
3			1作目		2作目		3作目		
4	定植 ・ 生育管理	定植 ・ 生育管理	定植 ・ 生育管理		定植 ・ 生育管理		定植 ・ 生育管理		
5	定植 ・ 生育管理		定植 ・ 生育管理		定植 ・ 生育管理		定植 ・ 生育管理		
6		収穫 ・ 販売							
7	収穫 ・ 販売		収穫 ・ 販売		収穫 ・ 販売		収穫 ・ 販売		
8				1作目		2作目			
9				定植 ・ 生育管理		定植 ・ 生育管理			
10				定植 ・ 生育管理		定植 ・ 生育管理			
11	事前研修 ・農業経営基礎 （座学・市内） ・実施研修 （先導農家）								
12				収穫 ・ 販売		収穫 ・ 販売			

備考）事前研修で行う先導農家や農業経営コンサルタントからの助言は、栽培開始後も随時実施



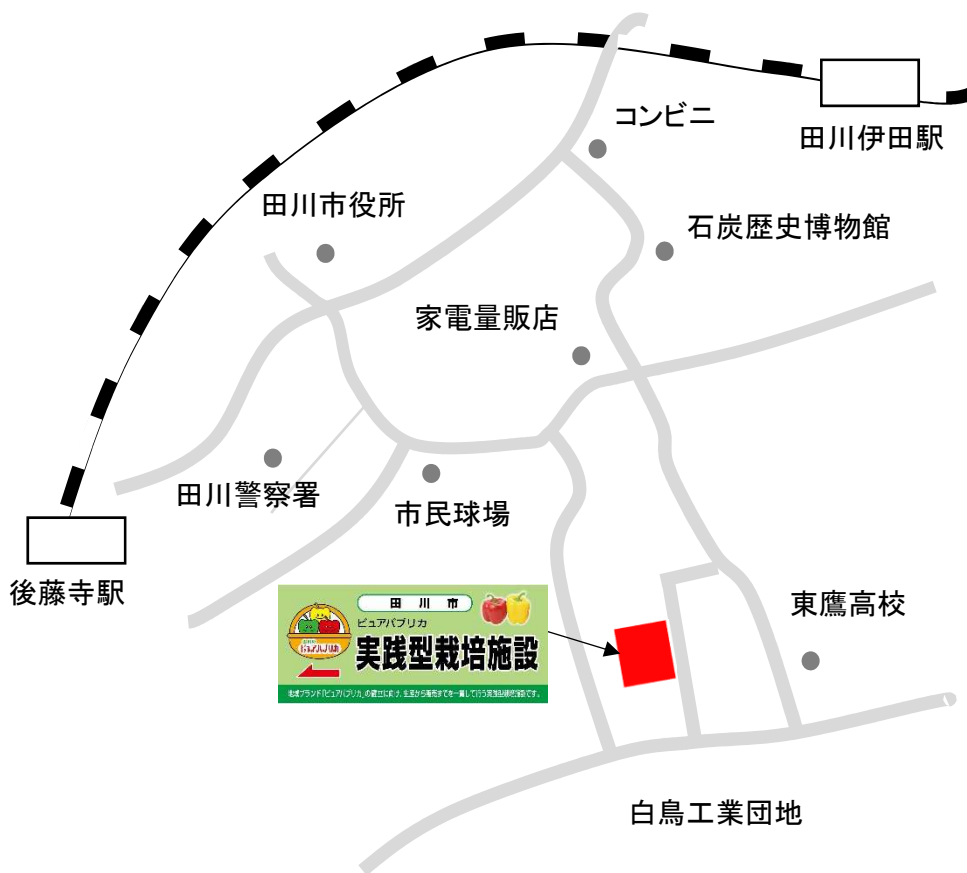
施設利用者の募集について

- ・公募により利用者（最大2名）を選定
- ・施設使用期間は約3年間（栽培開始前の座学等の期間含む）
- ・次回の利用者募集時期は未定（現利用者の終期は令和5年12月予定）

就農に向けたその他支援

- ・遊休農地（施設）の紹介
- ・市が委嘱するアドバイザー等による栽培支援
- ・施設整備（改修）等に関する国・県補助事業の活用支援
- ・農業次世代人材投資事業（経営開始型）による支援等

所在地・お問い合わせ



田川市伊田2427番3（白鳥工業団地E区画）

田川市建設経済部農政課農業企画室
0947-85-7144（直通）
nousei@lg.city.tagawa.fukuoka.jp